

研究実施状況報告書

平成 31年 3月 7日

長崎県立大学長 様

研究責任者 所 属 人間健康科学研究科  
 看護学専攻 公衆衛生看護学分野  
 職 名 教授  
 氏 名 久佐賀 眞理



受付番号 358	承認番号 345
I 課 題 父親が子どもとの関係を築く上で感じる困難感と母親への期待	
II 研究期間及び調査期間 研究期間 平成30年 4月 7日 ~ 平成31年 3月 31日 調査期間 平成30年 8月 1日 ~ 平成30年 8月 31日	
III 研究の実施状況（該当項目にチェックしてください） <input checked="" type="checkbox"/> 研究計画書どおり研究が終了した（公表方法：修士論文報告会） <input type="checkbox"/> 研究計画書どおり研究を実施した <input type="checkbox"/> 研究計画を変更して研究を実施した 変更審査申請書提出（ 済 ・ 未 ） 変更内容： 変更理由：	
IV 今後の研究の概要（研究が継続の場合）	
V 研究結果の概要（研究が終了の場合） 3歳以下の子どもの育児を体験した父親の「育児の難しさ」と、それを軽減すると思われる「育児体験」を明らかにすることを目的に、7名の父親を対象に半構造的面接を実施し分析した結果、以下のことが明らかになった。 父親の育児の難しさは5の категория、難しさを軽減すると思われる育児体験は10の категорияが抽出された。難しさは、父親役割の獲得、夫役割の遂行、仕事役割の調節、3つの役割間のバランスの調整の4つに大別され、父親役割では5つ、夫役割では3つ、仕事役割では1つ、3つの役割間のバランスの調整では1つの育児体験が関連していた。父親役割の獲得では、父親自身の子どもの対する知識や育児技術の獲得に向けて、妻や親族だけでなく、保健・医療機関からの父親が求める育児情報の提供や、同年代の親子と接する機会や場を設定することの重要性が示唆された。夫役割の遂行では、父親の育児参加に夫婦関係が大きく影響することから、夫婦で共に育児をするという意識をもてるような働きかけや、夫婦間で協同して育児に取り組めるように支援することの重要性が示唆された。仕事役割の調節においては、男性の育児参加のための休暇取得や仕事時間の短縮に向け、職場の意識や制度の普及を図る必要性が示唆された。3つの役割のバランスを調整する上では、父親は特に仕事役割の影響を強く感じていることから、父親自身が求める生活のバランスの実現に向けた社会的支援を整備する必要性が示唆された。 以上のことから、父親の育児参加促進に向けた支援として、父親が求める育児情報の提供を保健・医療機関が行うこと、子どもとの関係形成や育児に関する知識や技術の習得に向けた支援や、夫婦のコミュニケーションの促進に向けた支援を行うことが重要であると考え。また、父親が育児に参加しやすい環境を整えるために、職場の在り方や制度の見直しを行う必要があると考える。	
VI その他報告すべき事項	

※V研究結果の概要については別紙での提出も可